

私たちは、東海第二発電所の安全確保のため24時間365日、全力で取り組んでいます。

1. 地震や津波により全ての電源を失った場合に備えて、対応要員を常に確保しています

電源確保 要員

- 外部電源や非常用ディーゼル発電機が、万一使えなくなった場合に備え、いつなんどき、このような事態が発生しても電源車を起動して確実に必要な電源を確保できるよう、夜間、休祭日を含めて発電所近傍に電源確保要員を待機させています。
- 電源確保要員は、電源車の起動や電源ケーブルのつなぎ込みなどの訓練を繰り返し実施しています。



水源確保 要員

- 万一、発電所の全ての電源がなくなり、原子炉や使用済燃料プールへ冷却に必要な水の補給ができなくなった場合に備え、いつなんどき、このような事態が発生しても消防車や大容量ポンプ車を使用して水を送り込み、確実に冷却できるように、夜間、休祭日を含めて発電所近傍に水源確保要員を待機させています。
- 水源確保要員は、ホースの敷設・接続、機器の操作訓練を定期的を実施しています。



大容量ポンプ車の操作訓練

2. 発電所の各種機器の監視やパトロールなど、運転中と同様に対応しています

運転員

発電所の安全を保つための機器の監視や定期的な作動確認などを、運転中と変わることなく、24時間体制で行っています。



振動音を聞いてモーターの状態を確認



中央制御室

3. 万一の事態に備え、すぐに連絡したり、対応を行ったりできる体制を確保しています

放射線 測定員

夜間・休祭日でも、放射線測定を速やかに実施できるよう、放射線測定員をあらかじめ指名しています。
指名された放射線測定員は、発電所近傍に待機し、出動に備えています。



通報 連絡員

発電所に異常事象が発生したときなどには、自治体などに電話・ファックスにより、迅速に通報連絡を行うことが不可欠です。
そのため、私たちは、通報連絡員をあらかじめ指名して、迅速かつ確実な対応ができるようにしています。



4. 発電所の警備、火災対応なども、24時間体制で行っています

警備員

発電所への入構者の確認やパトロール、火災発生時への備えは、24時間、休むことなく行っています。



消防訓練



入構者の確認

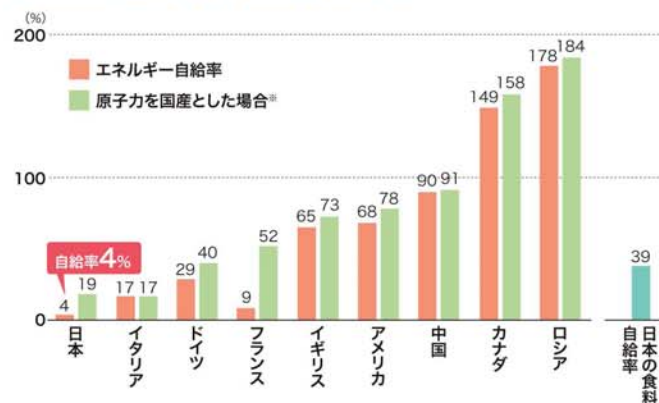
皆さまからのご質問に、お答えいたします

Question 日本では、なぜ、原子力発電を使うのでしょうか？

Answer

- 右のグラフに示すように、日本は、エネルギー資源のほとんどを海外からの輸入に頼っています(日本のエネルギー自給率は、わずか4%です)。
- 日本が、安定してエネルギー資源を確保するためには、特定のエネルギー資源や、特定の輸入先に頼ることなく、多様なエネルギー資源を確保することが大切です。
- 原子力発電は、燃料であるウランが特定の国に偏っておらず比較的確保しやすいこと、輸送や貯蔵がしやすいなどの特長があります。また、1回の燃料補給で1年間継続して発電することもメリットです。
- 原子力発電は、発電する際に二酸化炭素(CO₂)を排出しないため、地球温暖化防止の観点からも優れた発電方法です。
- 国際的な観点からも、日本の原子力発電の技術、知見は期待されています。

■主要国のエネルギー自給率(2010年)



※原子力発電の燃料であるウランは、一度輸入すると長期間使用することができ、再処理してリサイクルすることが可能なため準国産エネルギーとして扱われます。

出典: ENERGY BALANCES OF OECD COUNTRIES, 2012
ENERGY BALANCES OF NON-OECD COUNTRIES, 2012

資料出典:
電気事業連合会「原子力コンセンサス2013」

お問い合わせ先
土日祝日を除く 9時～17時



日本原子力発電株式会社

茨城総合事務所 茨城県水戸市笠原町978-25 TEL: 029-301-1511
東海事務所 茨城県那珂郡東海村白方1-1 TEL: 029-287-1250

当社ホームページ
<http://www.japc.co.jp/>